

2012年度 東日本大震災 教育復興支援レポート



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

被災地ではまだまだ支援が必要とされています。

東日本大震災の発生から2年余が経過しました。被災地で今なお不自由な生活を送っておられる皆さまにお見舞い申し上げるとともに、日々支援活動をされている皆さまにエールをお送りします。

2011年3月11日の大震災により、多くの学校や家庭が被災し、子どもたちの教育環境が危機に陥りました。私ども日本ユネスコ協会連盟では、大震災発生直後に支援活動の体制をとり、募金活動に入りました。当連盟では、海外支援の経験を活かすとともに、被災地の教育現場からの声を大切にして、被災地の教育復興に全力で取り組んできました。

被災地の報道を目にはじめることは少なくなっていましたが、家を失った方々の多くは、今なお仮設住宅の生活を余儀なくされています。また、原発被害の不安をいまだに拭い去ることのできない方々も多く、引き続き今後も支援が必要とされています。

大震災が起きてもう二年、されどまだ二年であります。

ここに被災地支援の報告書をまとめました。本書を手にとられた皆さまが、東北の現状に思いを馳せ、改めて支援の目を向けられることを強く望みます。

被災された皆さま方におきましては、支援者と皆さまの絆が今なお続いていることを再確認していただければ幸いです。

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
会長 松田昌士



目次

支援活動地域	01	さまざまご協力	18
被災地支援の軌跡	02	ユネスコファミリーからの支援	19
2011年度に行った活動	04	被災地からのメッセージ	20
文化・地域支援	06	協力企業・団体紹介	22
MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災 復興育英基金	10	募金のお願い	24
ユネスコ協会就学支援奨学金	14	会計報告	25

支援活動は地域に広がっています

活動地域および奨学生受給者居住地

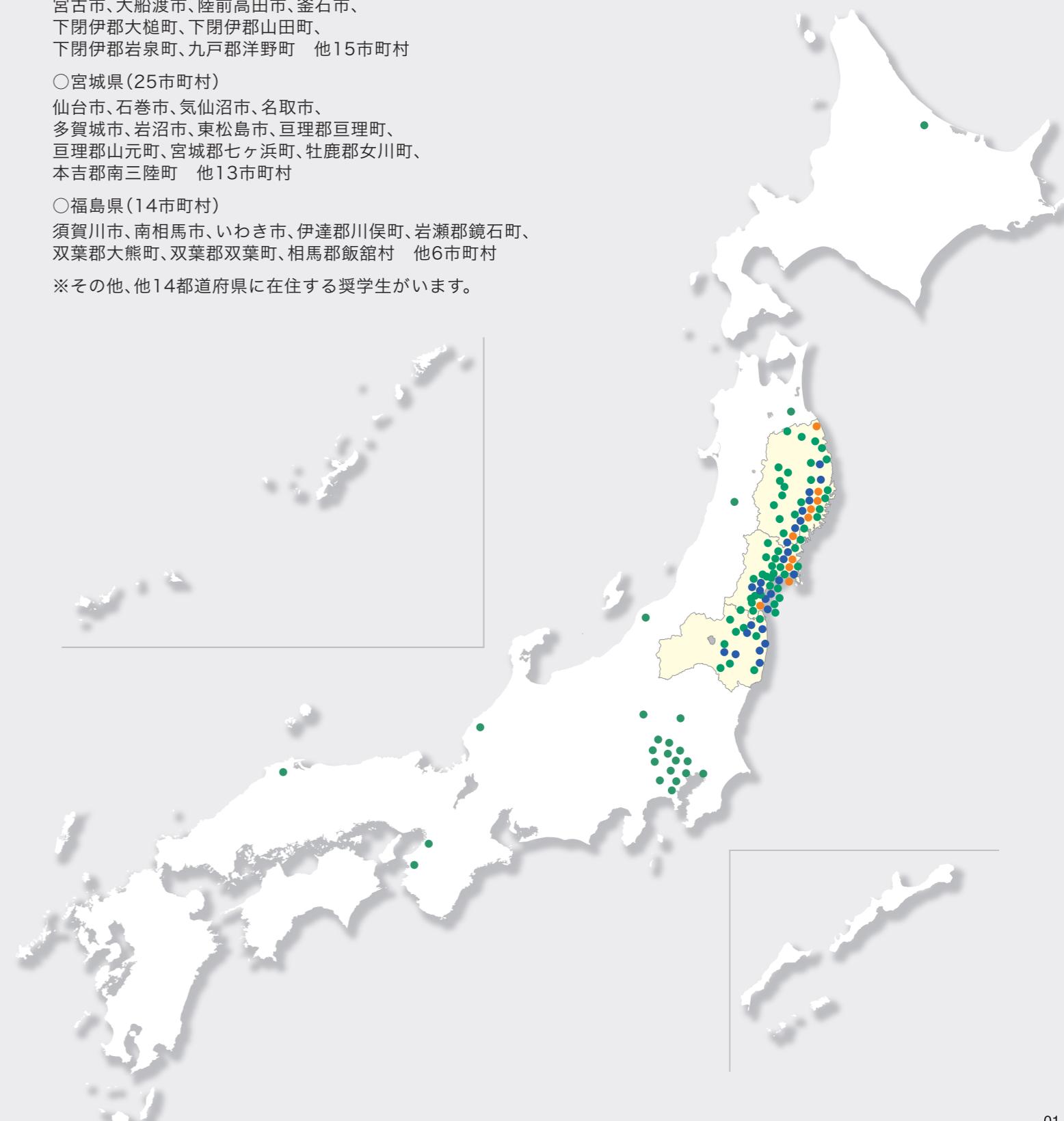
- 短期支援(活動地域)
- 中期支援(活動地域)
- 長期支援(奨学生受給者居住地)

○ 岩手県(23市町村)
宮古市、大船渡市、陸前高田市、釜石市、
下閉伊郡大槌町、下閉伊郡山田町、
下閉伊郡岩泉町、九戸郡洋野町 他15市町村

○ 宮城県(25市町村)
仙台市、石巻市、気仙沼市、名取市、
多賀城市、岩沼市、東松島市、亘理郡亘理町、
亘理郡山元町、宮城郡七ヶ浜町、牡鹿郡女川町、
本吉郡南三陸町 他13市町村

○ 福島県(14市町村)
須賀川市、南相馬市、いわき市、伊達郡川俣町、岩瀬郡鏡石町、
双葉郡大熊町、双葉郡双葉町、相馬郡飯舘村 他6市町村

※その他、他14都道府県に在住する奨学生がいます。

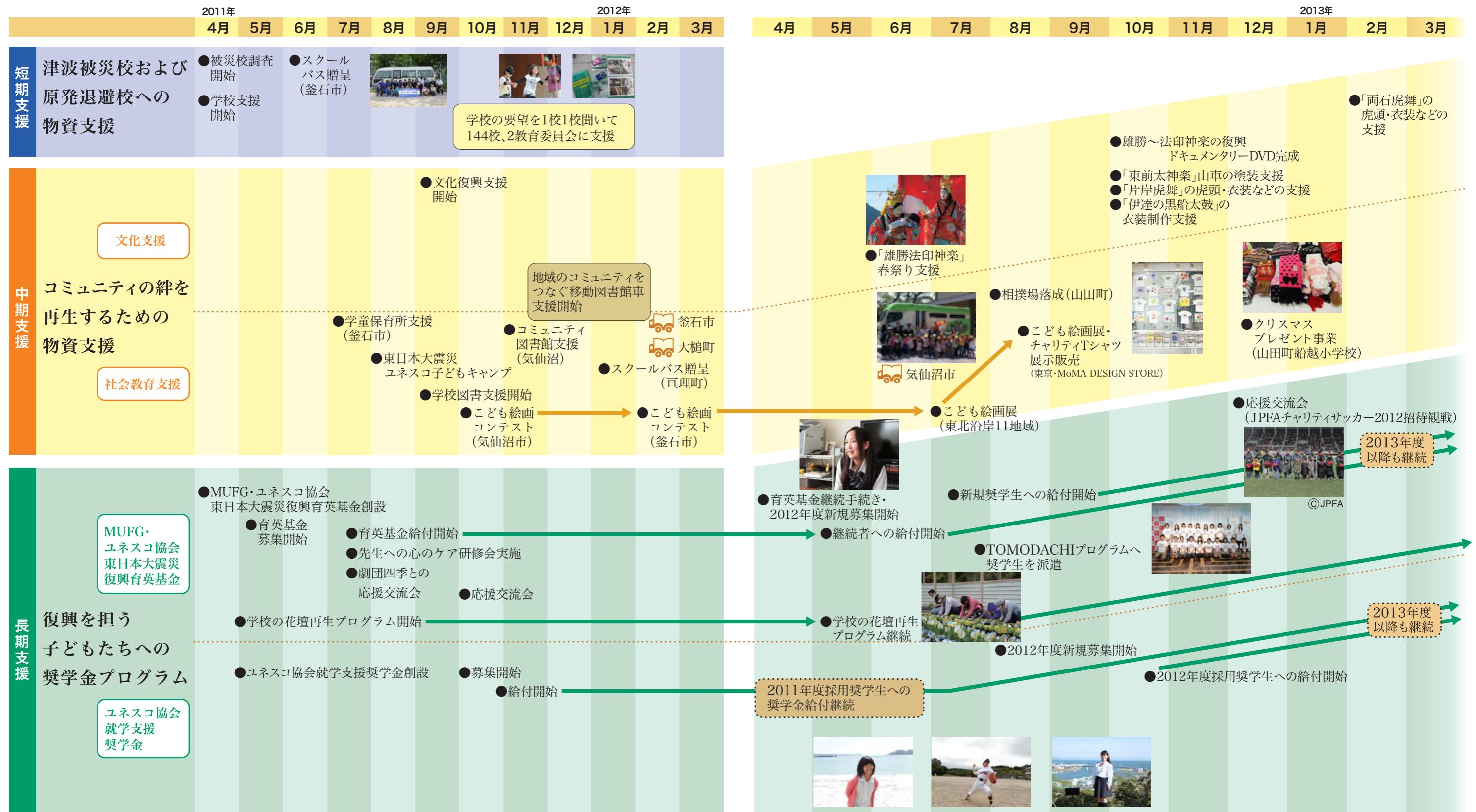


被災地のニーズに応えた2年半

大震災の報道を受けて、日本ユネスコ協会連盟は、いち早く被災地支援の体制を整えました。まず最初は、大被害を被った学校や先生、生徒が必要としている緊急支援です。次いで、震災で大きな被害を受けたコミュニティを復興するための支援です。そして、長期的な視点にたった奨学金支援を立ち上げました。これら一連の活動には、これまで当連盟が海外支援で培った経験が大変役立ちました。

被災地の皆さんと 心を合わせました

迅速かつニーズに応じた支援活動が可能となったのには、地元の教育委員会や学校の温かいご理解・ご協力がありました。また自らも被災しながら、地元との架け橋を引き受けた被災地ユネスコ協会の尽力がありました。皆で心を合わせました。





2011年、 たくさんの真心が 被災地に届きました。



震災の年、まず必要だったのは、学校への緊急物資支援でした。次いで、奨学金、社会教育分野、文化・祭りへの支援が始まり、2012年度以降に引き継いでいます。

学校への緊急物資支援

学校を再開するためまず行ったのが緊急物資支援です。教材類や体育用具など、学校のニーズにあわせて柔軟に対応したので、それぞれ必要なものを迅速に支援することができました。また、地域経済復興の一助となるよう、なるべく地元の商店に発注しました。



支援実績

幼・小・中・高 **144校**、**2教育委員会**、
支援額 **1億8802万円**

【支援をいただいた主な企業・団体】

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 役職員募金、市川市少年野球連盟、株式会社ワイズ、花王株式会社、株式会社紀伊國屋書店、株式会社光明工事、株式会社ジェーシーピー・インターナショナル、真如苑、株式会社スポーツピズ、東京大塚阿波おどり実行委員会、西山製麺株式会社、日本私立学校振興・共済事業団、日本石鹼洗剤工業会、日本テトラパック株式会社、日本電信電話株式会社、ベネッセ募金・ベネッセグループ、株式会社ベルセレージュ、三菱重工業株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行、ルーカスター株式会社、有限会社レタスアンドピアス

心のケア支援

津波が襲ったあの恐ろしい記憶、瓦礫に覆われた街、長引く避難所生活…。子どもたちのストレスは日に日に大きくなりました。そこで、子どもたちが少しでも日常を忘れ、楽しい時間を過ごせるイベントを実施しました。



キャンプで笑顔を見せる子どもたち

東日本大震災ユネスコ子どもキャンプ
【参加者 **54名**】

こども絵画コンテスト
【参加者 **398名**】
絵本の読み聞かせ会
【参加者 **110名**】

【支援をいただいた主な企業・団体】
トレンドマイクロ株式会社、株式会社ニッセン、日本テトラパック株式会社

社会教育分野への支援

さまざまなストレスを抱える子どもたちにとって、本は別世界へ誘う入口。そこで移動図書館車をつくって寄贈しました。また、働く親御さんのために学童保育所を設けました。一方、岩手県山田町では相撲場が全壊。横綱白鵬関の呼びかけで相撲場の再建を開始しました。



支援実績

移動図書館車 **5台**、学童保育所 **1棟**、
学童保育所の物資支援 **3カ所**

【支援をいただいた主な企業・団体】

花王株式会社、トレンドマイクロ株式会社、株式会社ニッセン、日本テトラパック株式会社、力士会

祭り・文化の再生

震災で危機に瀕した東北の祭り・文化を救ってほしい。被災地の声を受けて、日本の自然・文化を未来へ伝える「未来遺産運動」の一環として、被害を受けた郷土芸能の状況を調査。その結果、存続が危ぶまれる東北沿岸の地域芸能を救う文化支援を行うことを決めました。



地域芸能の衣装や太鼓などを支援

雄勝法印神楽:神楽面 **4面**の復元と衣装や備品、
櫻舞太鼓:短胴桶太鼓 **2張**、締太鼓皮 **10枚**、
用具運搬車両、学校での郷土芸能教育用具

【支援をいただいた主な企業・団体】
日本テトラパック株式会社、フェリシモファンド、三菱商事株式会社

被災地の中学校が来局

支援先の中学校が、修学旅行で東京を訪れた際、当連盟を訪問してくれました。ある学校は、私たち宛の手紙を携えて。またある学校は、生産が再開したばかりの“復興わかめ”的みやげを手に。お腹の底から声を張り上げて応援歌を歌ってくれた生徒さんたちも。その力強い歌声に、応援している側の私たちも元気をいただきました。



応援歌を披露してくれた田老第一中学校の皆さん

被災した地域の 再生のために 心のよりどころを求めて。



地域の伝統芸能「雄勝法印神楽」の復活に町は沸いた



こども絵画展では絵をモチーフにしたチャリティTシャツを販売し、その収益が子どもたちのために使われた

被災地の人びとの絆を再生するには、
社会教育分野の支援が欠かせません。
また、津波で存亡の危機に陥った地域芸能の復活は、
人びとの心を結びつけてくれました。

祭りや郷土芸能は、人びとの 心をつなぐ地域のたからもの

文化復興の第一歩として、宮城県石巻市雄勝町に伝わる
郷土芸能の復活に尽力しました。

【 支援をいただいた企業 】日本テトラパック株式会社

雄勝法印神楽 ドキュメンタリー制作

石巻市に600年以上に渡り伝えられた「雄勝法印神楽」は、地元生活に密着した特別な伝統芸能です。2011年度は、神楽の道具や衣装などを、2012年度は、地元の「神楽の復興を後世に伝えたい」強い思いを受け、ドキュメンタリー映画を制作しました。神楽の復活を通じて、復興に取り組む雄勝町の人びとの力強い姿を映し出しています。すでに、日本各地のケーブルテレビを中心に約70回、ユネスコ協会で66回の上映会を実現しました。



支援実績

ドキュメンタリーDVD『雄勝～法印神楽復興』(60分)

監督:手塚 真

機材協力:キヤノンマーケティングジャパン株式会社

伊達の黒船太鼓

石巻市雄勝町50周年記念事業で1991年に誕生した「伊達の黒船太鼓」。大震災の津波により、太鼓や衣装のほとんどが流失しました。幸い、太鼓は瓦礫の中から見つかり修理ましたが、衣装はありません。そこで、世界的なデザイナーのコシノジュンコ氏のご協力で衣装の制作が実現しました。



2012年11月、自衛隊(第6師団)創立50周年記念音楽祭で、衣装のお披露目演奏を行いました。また同年12月、雄勝の浜の巨大な壁「希望のキャンパス」(左官職人の挾土秀平氏が鎮魂のために築造)の完成式典で演奏しました。

支援実績

衣装制作 13着

両石虎舞・片岸虎舞

岩手県釜石市に伝わる「両石(リョウイシ)虎舞」と「片岸(カタギシ)虎舞」。航海の安全と大漁祈願として、江戸時代に始まったと伝えられています。津波に流された虎頭(トラガシラ)・虎幕(トラマク)を復元、また練習場や道具置き場として使用する倉庫の建設を行いました。



支援実績

虎頭・虎幕の復元(各1)、プレハブ建造物 2棟

東前太神楽

岩手県釜石市に長く伝えられてきた「東前(ヒガシマエ)太神楽(オオカグラ)」には、太神楽の舞と七福神の舞があります。七福神の舞を踊るのは子どもたち、2年から6年の小学生たちが大黒天や弁財天に扮して招福を祈願します。祭りに使用する山車の塗装を支援しました。



支援実績

山車の塗装

やすらぎと人びとの絆を 地域に再生する

「少しでもいい。もとの生活に戻りたい…」。そんな声が聞こえてきたのは、被災地のニーズ調査で各地をまわりヒアリングしていたときのことでした。社会教育の面から、地域に根ざした支援をしています。

「こころに笑顔」プロジェクト

ドイツの総合化学会社・BASFグループは、大震災発生の報に接するや、社内で募金を集め、UNESCOに寄附しました。UNESCOと日本ユネスコ協会連盟がパートナーシップを組み、宮城県気仙沼市を中心に小学生や保護者、教職員をサポートする「こころに笑顔」プロジェクトを開始。大学生ボランティアによる補習クラス、夏の子どもキャンプ、気仙沼市内36校への遊具やスポーツ用品の提供、実験工作教室などを提供。子どもたちの心のケアに役立つ活動を通じ、震災前の生活にいっくも早く戻れるよう活動をしました。



キャンプでは久しぶりの水遊びに歓声があがった



支援実績

補習クラス96カ所、夏の子どもキャンプ1回、
気仙沼市内39校への遊具やスポーツ用品の提供、実験工作教室20回

【支援をいただいた企業】
BASF

こども絵画展



こども絵画展(写真左)の会場では、子どもたちの絵をモチーフにしたTシャツ(写真右)を販売。収益は被災地の子どもたちのために使われている

被災地の各自治体と相談を重ね、現地の子どもたちから絵を募集して全国に発信することで、震災を風化させない力にしようとしました。熱いメッセージの絵は約2000点。株式会社ニッセンのホームページ上で全作品を公開するとともに、2012年夏には、ニューヨーク近代美術館のミュージアムショップMoMA DESIGN STORE(東京)で、100点を展示しました。また、それらの絵をモチーフにしたチャリティTシャツを販売し、収益は絵画展に参画した自治体を通じて子どもたちのために活用してもらっています。

支援実績

ご協力いただいた自治体: 釜石市、洋野町、野田村、久慈市、山田町、大槌町、普代村、東松島市、女川町、気仙沼市、名取市、亘理町、山元町、南三陸町

【支援をいただいた企業】 株式会社ニッセン

クリスマスプレゼント

岩手県下閉伊郡山田町立船越小学校は、校舎が被災し、青少年の家の一部を間借りして授業が行われています。そこで、2011年度の学校支援の延長として、花王株式会社のご支援でクリスマスプレゼントのマフラーを贈りました。また、岩手県はかるた競技が盛んなので、かるたなども贈りました。



色とりどりのマフラーが贈られた

支援実績

マフラー151本、辞書120冊、かるた84セット

【支援をいただいた企業】
花王株式会社

図書館

書籍や絵画は被災者の疲れた心を癒してくれる。また、新しい町のビジョンを描く情報源として、図書館は欠かせない——。そんな図書館長の話から支援が始まりました。被災後に居住地が移動したため図書館に行けなくなった人たちに、トレンドマイクロ株式会社のご支援で移動図書館車が開設しました。約2500～3000冊もの本を積んだ移動図書館車が、仮設住宅などを回って本を届けています。また「震災で家を流され、異なる地域に住む人びとを結びつけるものを」という要望に応えて、日本テトラパック株式会社のご支援で地域の核となるコミュニティ図書館の建設を進めています。



気仙沼市内をめぐる移動図書館車



建設が進むコミュニティ図書館

支援実績

コミュニティ図書館: 1棟(宮城県気仙沼市)
移動図書館車: 1台(宮城県気仙沼市)

【支援をいただいた企業】
トレンドマイクロ株式会社、日本テトラパック株式会社

土俵

相撲の盛んな三陸地方では、練習場となる土俵も大きな被害を受けました。横綱・白鵬関を中心とした力士会の支援により、2011年度から建設が始まった岩手県山田町の土俵が完成し、2012年8月に無事落成式が行われました。



落成式に出席した白鵬関はじめ力士の皆さん

支援実績

相撲場: 1ヶ所(岩手県山田町)
力士会

【支援をいただいた団体】
力士会

悲しみを乗り越えて、 未来への夢を 描こうとしています。



東日本大震災によって被災した子どもたちが
生き生きと学び夢に向かって成長するため、
MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金では
さまざまな支援を行っています。

1233名

MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金の、2011年度からの継続給付者数は1108名。
2012年度、新たに申し込みがあった125名とあわせて、1233名に奨学金の給付を行いました。

MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

対象者 東日本大震災発生時に災害救助法適用地域に居住しており、両親もしくはいずれかの保護者が死亡・行方不明となった子どもで、小学校から高等学校に在籍していた者(2012~2014年の各4月に小学校入学予定の児童についても別途、募集実施)

支援金額 奨学生一人あたり一時金10万円+毎月2万円を高校卒業まで給付



【支援をいただいた企業】三菱東京UFJ銀行をはじめ、三菱UFJフィナンシャル・グループ各社

震災直後に 基金を創設

震災前から環境教育事業で協働していた三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)と話し合いを行い、震災直後の2011年4月にMUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金を創設しました。柱となっているのは、小学生から高校生までの児童・生徒を対象とした奨学金給付事業。ほかにも各種プログラムを通じて、子どもたちの心豊かな成長を目指し、物心両面での継続的な支援を行っています。

奨学生・ 保護者からの メッセージ

母より

孫が私たちのもとで生活を始めてから、2年1ヵ月が過ぎました。今は毎週日曜日に父親に会える日を心待ちにしながら、とても元気に過ごしております。人とのつながりを大切にしながら、大きく大きく成長してほしいと願っております。

祖母より

今わたしががんばっていることは2つあります。1つ目はじてん車にのることです。“じっち”とまい日れんしゅうしたのれるようになりました。風がつよいときはじてん車がなん回もたおれます。うしろから風におされて早くすんで、おもしろかったです。2つ目はなわとびです。80回とべるようになりました。100回とべるようにがんばります。“ばっぱ”は3回しかとべませんでした。かけるとびもがんばります。

震災の遺児・孤児の ための奨学金事業

基金の中心事業は、MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金を対象とした給付型奨学金プログラムです。基金創設後、三菱東京UFJ銀行とともに準備を重ね、2011年6月に奨学生の募集を開始。以来、継続して給付を行っています。このほか、学校の花壇再生プログラム、交流会やチャリティサッカー試合への招待など、子どもたちを取り巻く環境が少しでも豊かになり、未来への夢を大きく描けるように、心身を育む企画を実施しています。

支援実績

支援者数: **1233人** (2012年4月1日~2013年3月31日)

奨学金送金額: **3億816万円** (2012年4月1日~2013年3月31日)

(小学生: 469人 中学生: 354人 高校生: 405人 養護学校・特別支援学校: 5人)



震災後、祖父母のもとで暮らす奨学生の少女。
祖母ともにお便りを寄せてくれた
(本ページ下、奨学生・保護者からのメッセージ
参照)

奨学生OBより
(大学1年生)

高校での部活を引退して、昨年の11月からアルバイトを始めました。アルバイトで初めてお給料をいただいたときに、お金はこんなに大変な思いをしてもらうものなのか、お金を稼ぐというのはすごく大変なことだと感じ、改めてお金の大切さを思い知りました。

現在は、あきらめかけていた大学にも通えています。大学生活は楽しいです。今の生活はMUFG・ユネスコ協会さんの支援があってこそなので、日々とても感謝しています。これから的生活もしっかりとがんばっていきます。

奨学生より
(小学校2年生)



花壇再生プログラム

花壇再生プログラムは、東日本大震災による津波被害や除染作業などで失われた学校の花壇を再生するプログラム。三菱東京UFJ銀行をはじめとするMUFG社員が、ボランティアとして被災地（岩手県・宮城県・福島県）の学校などを訪問し、花壇の土の入れ替えや花苗を植える取り組みを行っています。花苗を植えて咲かせることで、子どもたちに明るい気持ちを取り戻してほしい、という思いのもと開始しました。花を植えた後は、子どもたち自身が水をあげることで、育てる大切さを知ってもらいます。

支援実績

2012年度は計12回、14校で実施し、約360名のMUFG社員が参加しました。

実施校
岩手県 県立高田高等学校、宮古市立田老第一中学校、大船渡市立綾里小学校、大船渡市立末崎小学校
宮城県 東松島市立赤井南小学校、気仙沼市立鹿折小学校、県立宮城県水産高等学校、
気仙沼市立大谷小学校、石巻市立湊小学校、桜木花園幼稚園、石巻市立開北小学校
福島県 南相馬市立小高小学校、南相馬市立原町第三小学校、南相馬市立太田小学校

MUFG社員 ボランティア からの メッセージ



「最初は”花壇再生”が本当に被災地の応援につながるのか、と疑問に思いました。しかし、実際に現地に足を運び、自分の目で見たり、学校の先生のお話を直接聞いたりすることで、お花が並ぶ風景が当たり前でないと認識しました。きれいになった花壇を見て、少しでも子どもたちの元気につながってくれれば嬉しいです。」

「花を植えたり雑草を抜いたり、取り組んだことは大きなことはありません。でも、団体で取り組むと立派な花壇が完成し、校庭も見違えるようになり、皆で力を合わせると大きなことができると思いました。一緒に参加してくれた子どもたちが喜んでいる姿を見て、本当に参加してよかったです。子どもたちや被災地の方々が希望を持つようになってくれたら嬉しいです。」



心豊かな成長プログラム

○チャリティサッカー2012

MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金の奨学生が、笑顔になるようなイベントを、という思いから、奨学生を集めた応援交流会を実施し、MUFG主催イベントなどに招待。2012年12月26日(水)には、宮城県仙台市で開催された「チャリティサッカー2012」（主催：一般社団法人日本プロサッカー選手会）に奨学生を招待しました。

支援実績

仙台市周辺の奨学生17名が参加。

試合観戦を楽しんだほか、プロサッカー選手と手をつないで競技場に入場（エスコートキッズ）したり、海外で活躍する選手と交流したりと、貴重な体験をしました。

保護者 からの メッセージ



「父親を亡くしてから、テレビでサッカーを観戦することすらなかったので、このような機会をつくっていただき嬉しく思っています。エスコートキッズとして、たくさんの観客が見ているスタジアムに立てたことが大変楽しかったようです。」

「このたびは応援交流会を開催していただき、ありがとうございました。国内外で活躍している選手が目の前にいて、子どもは夢のようだったようです。」



○第1回 TOMODACHI・MUFG 国際交流プログラム

TOMODACHI イニシアチブは、東日本大震災からの復興を支援するとともに、長期にわたり日米間の文化的・経済的な結び付きを強化し、友好を深めるかたちで、両国の将来の世代に投資を行う官民パートナーシップです。MUFGはこの趣旨に賛同し、東日本大震災の被災地の中学生・高校生・教員を中心に、米国の生徒・教員と相互交流する3年間の「日米相互交流プログラム」を立ち上げました。

米カリフォルニアで1回目を実施

宮城県の中学3年生～高校3年生の20名、教職員4名の合計24名が参加。2012年7月27日(金)～8月9日(木)の2週間、米国カリフォルニアで実施されました。内容は次の2通り。
①ホームステイ・プログラム(5泊・カールスバッド)/英語学習、ホストファミリーとの交流、ボランティア体験など。
②学生寮ステイ・プログラム(7泊・ロサンゼルス)/英語学習、地域コミュニティとの交流、現地企業・大学訪問、市内見学など。



支援実績

参加した20名の生徒のうち8名は、MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金の奨学生です。

参加者(奨学生) からの メッセージ



「自分がこれまで見ていた世界がどれほど小さかったかと感じ、広い視野で物事を見ることができるようになった。震災で2人の家族を失ったが、アメリカでもう1つの家族をつくることができた。もう悲しくありません。」

「津波で海に対する不安があったが、青い海と空のもとホストファミリーと一緒に過ごし、いつの間にか海に入って楽しんでいた。日系人の苦労や努力の歴史に触れ、大きな驚きと力をもらった。今後、英語を使った仕事がしたい。」



未来への夢を培い 勉学にいそしむ。



厳冬を乗り越え、3度目の春を迎えた被災地の子どもたち。

でもまだ、支援を必要としている子どもたちも。

学びを支える支援の輪をいっそう大きく広げたい。

6万8000人

文部科学省によると、震災の影響による経済的な理由で、就学への支援を必要としている子どもは約**6万8000人**(幼・小・中・高・専修学校など)に上り、そのうち小・中学生は、約**3万7000人**といわれています。(2011年度実績より)

ユネスコ協会就学支援奨学金

対象者 津波による家屋流失・損壊などの理由により、著しく経済状況が悪化した家庭の小・中学生
(対象者の詳細は市町村により異なります)

対象地域 岩手県、宮城県、福島県の3県で被害の大きかった市町村を特定して実施

支援金額 原則として奨学生一人あたり月額2万円を3年間給付



誰もが学校に通えるように

東日本大震災によって、著しく経済状況が悪化した家庭の子どもたちが、安心して学校に通えるようになると始まったのがユネスコ協会就学支援奨学金事業。全国の企業・団体・個人の皆さまからの温かいご支援により、2012年度は岩手・宮城・福島3県の計11市町の子どもたちに奨学金が給付できました。



津波に流された町を通って学校に通う

被災地の子どもたち

地元の方々が懸命に取り組む一方で、復興には時間がかかりています。奨学生の中にはまだ仮設住宅で避難生活をしている子どもたちもいますが、皆一生懸命、勉強や部活に頑張っています。



仮設住宅で暮らしながら将来への夢を描く

まだまだ支援が必要です

2012年度は、被災地の11市町、合計1845名の子どもたちに奨学金を届けることができました。一方で、まだ支援が届かない地域も数多く残っています。一人でも多くの子どもたちに支援が届くよう、今年度も温かいご支援をお願いします。



ひとりでも多くの子どもたちの夢を支えたい

支援実績

支援者数: **1845人** (2012年4月1日~2013年3月31日)

奨学金給付額: **5億9648万円** (2012年4月1日~2013年3月31日)

岩手県/大槌町、釜石市、陸前高田市 宮城県/石巻市、女川町、気仙沼市、仙台市、名取市、東松島市、南三陸町
福島県/南相馬市

【支援をいただいた主な企業・団体】

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、赤城乳業株式会社、アクアクララ レモンガス グループ、アクサ生命保険株式会社、LG Electronics Japan株式会社 社員一同、園芸学会、オリックス米国財団、一般社団法人 銀座通連合会、グッチ ジャパン、有限会社クロフネブライダル、株式会社健康第一調剤薬局、株式会社光明工事、公立学校共済組合やすらぎの宿(利用者一同)、株式会社三喜、株式会社ジェイアール東日本都市開発、株式会社ジェーシービー・インターナショナル、JAPONAIDE、ジョルジオアルマーニ ジャパン 株式会社、新コスモス電機株式会社、真如苑、株式会社スペースシャワーネットワーク、株式会社生薬高度利用研究所、株式会社セレスポ、全国空襲被害者連絡協議会、株式会社ソニー・ミュージックアーティスツ、清酒 獺祭、株式会社力の源カンパニー、株式会社Tポイント・ジャパン、東芝テックソリューションサービス 社会貢献基金、株式会社トランスクンテナ、トレンドマイクロ株式会社、南部化成株式会社、株式会社ニッセン、一般社団法人日本旅館協会、日本テラパック株式会社、宗教法人日本テラワード仏教協会、一般社団法人日本の伝統を守る会、日本を創新する会、東日本旅客鉄道株式会社、フォーエバーリビングプロダクト ジャパン、ブルーチップ株式会社、ベネッセ募金・ベネッセグループ、株式会社ベルセレージュ、マックスバリュ西日本株式会社、三井石油株式会社、三菱重工業株式会社、株式会社ロッテアイス、特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

心豊かな成長を願って

被災した子どもたちの就学危機に際し、多くの企業や団体、個人の方々からご寄附いたきました。子どもたちが安心して学校に通い、無事に進級・進学することを願っています。支援者の皆さまからメッセージをいただきました。

アクサ生命保険株式会社

取締役 代表執行役副社長

兼チーフディストリビューションオフィサー 幸本智彦



アクサ生命は、社員の日々の活動を通じて東日本大震災で被災された方々のお役に立ちたいと考え、2011年より弊社保険商品への新たなご加入1件につき1ユーロ相当額を被災地の復興支援に拠出する「復興支援 1件1ユーロ寄付キャンペーン～みらいをつくろう～」を行い、被災地域のニーズに応じた支援を進めてまいりました。2012年は、ユネスコ協会就学支援奨学金の趣旨に賛同し、社員の思いを込めた同キャンペーンによる資金を、被災地の『みらいづくり』を支える奨学生の皆さまの就学資金として活用いただくこととしました。この支援が奨学生の皆さまの健やかな成長と、希望にあふれる明るい未来づくりの一助となりますことを心より願っています。

トレンドマイクロ株式会社

トレンドマイクロ創業者

のEva Chen(現社長)、

Steve Chang(現会長)、

そしてJenny Changは

台湾出身であるため、

1999年の台湾921地震

に対する日本からの支援



に大変感謝しております。現在、会長夫妻は台湾で、子どもの教育と心理療法に力を入れた財團を運営しており、今回は日本ユネスコ協会連盟を通じてさまざまな支援をサポートさせていただきました。トレンドマイクロは日本に本社を置く企業であり、台湾での会長夫妻の活動に寄り添う形で、とくに被災地のユネスコ協会就学支援奨学金や移動図書館の寄附は、直接的に子どもの教育へつながる支援となることでしょう。

グッチ ジャパン

グッチは、世界で弱い立場におかれた子どもたちの教育を支援する社会貢献活動をグローバルな規模で行っており、2011年3月の震災直後よりさまざまな支援活動を積極的に行ってまいりました。このたび「ユネスコ協会就学支援奨学金 - GUCCI奨学生」というかたちで被災された子どもたちの教育を支援させていただくことになり、福島県南相馬市の57名の中学生3年生に対し3年間の奨学金支援をすることができました。GUCCI奨学生から1年目に寄せられたメッセージを拝見し、就学支援の必要性と継続することの重要性を改めて感じました。子どもたちが安心して学べるように引き続き支援を継続してまいります。

グッチは、教育はすべての子どもたちにとって永遠の贈りものだと考えています。

日本テトラパック株式会社

東日本大震災から2年半の月日が過ぎようとしています。この2年の月日は、確実に子どもたちを2歳成長させました。成長するに従い新たな希望が生まれ、新しい可能性を試す機会も増え、子どもたちはさまざまな経験を積み重ねながら成長しています。

我々は、経済的な理由で子どもたちが希望をあきらめるような場面をつくってはならないし、企業も積極的に支援をするべきと思っていました。子どもたちを経済的に支援する、日本ユネスコ協会連盟のスキームは素晴らしいもので、それにテトラパックとして参加できてとてもよかったです。今後も、子どもたちの成長と夢の実現に向けて陰ながら応援していきます。

三井石油株式会社

三井石油は、原油の輸入から石油精製、石油製品販売までを扱い、三井グループのエネルギー部門を担う会社として歩んでいます。



2011年2月に弊社創立

50周年を迎えるにあたり、社会への感謝の気持ちを形にしようと皆で協議していた矢先に、東日本大震災が発生しました。まず、当面必要と思われる復旧への支援として、被災5県(岩手、宮城、福島、茨城、千葉)への寄附を実施しました。そして、長期にわたる支援として「将来を担う子どもたちの未来への支援」の必要性を強く感じ、情報を集めていたところ、ユネスコ協会就学支援奨学金を知り、支援することに決めました。

これからも、いつも、いつまでも、三井石油は応援していきます。

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

東日本大震災で被災された皆さんに、心よりお見舞い申し上げます。ワールド・ビジョン・ジャパンは、震災発生直後より、世界中から寄せられた温かいご支援に支えられながら、被災した方々とともに、復興に向かたさまざまな活動に取り組んでまいりました。その中で、被災した子どもたちが学び続け、将来への希望を持ち続けることができるよう、このユネスコ協会就学支援奨学金を通じ、南三陸町と気仙沼市の小・中学生1118人を支援しています。2014年3月までの3年間という限られた期間ではありますが、この奨学金が、奨学生の皆さんのがんばりの力となることを願ってやみません。



たくさんの人や企業が 被災地に思いを寄せていました

ご寄附には、さまざまな形がありました。

その一例をご紹介します。

Web約款選択で 寄附

あいおいニッセイ同和損害保険のWeb約款対象商品をご契約いただくと、紙資源などの節約となり環境保護につながります。このWeb約款の選択件数に応じて、ユネスコ協会就学支援奨学金にご寄附いただけます。



商品券、株主優待券 によるご寄附

通常のご寄附以外に、エコポイント制度などで交換した商品券や株主優待券によるご寄附を、複数社からお預かりしました。これらは協力企業に換金いただき、支援に活用されました。



歌舞伎鑑賞で 被災地支援

新橋演舞場(東京・銀座)で「東日本大震災復興支援チャリティ歌舞伎」公演が開催されました。昨年に引き続き、一般社団法人 日本の伝統を守る会のご協力により実現し、収益の一部がユネスコ協会就学支援奨学金への募金となりました。



展示会や ポイント募金

東京のアトレ吉祥寺やアトレ大井町では、奨学生からのお手紙などを展示。また、アトレ各店で使えるアトレカードやTポイント提携店で使えるTカードでは、買い物のすると貯まるポイントを寄附し、奨学生を支援できます。



東京・銀座より 光を

銀座から被災地へ光を届けようと、銀座通連合会・全銀座会・ギンザインターナショナル ラグジュアリー コミッティがクリスマスイルミネーションを実施。募金箱を設置し、ユネスコ協会就学支援奨学金にご寄附いただきました。



「はやぶさ」号グランクラス 料金の一部を寄附

東日本旅客鉄道株式会社からは、東北新幹線「はやぶさ」号において、震災直後の運転再開から通常ダイヤ再開まで(4月29日~9月22日)の期間に行われたグランクラス料金の一部をユネスコ協会就学支援奨学金にご寄附いただきました。



新郎新婦より 被災地の子どもたちへ

2012年に結婚したある新郎新婦は、引き出物を出す替わりにユネスコ協会就学支援奨学金へ寄附してくださいました。式では、被災地の現状や新郎新婦の思いが動画で披露されました。同様の結婚式を挙げる例が続いているそうです。



被災地の間伐材が 国際協力の架け橋に

株式会社電通と共同で宮城県南三陸町の森の間伐材でつくった「書きそんじハガキ回収ボスト」を、全国に広げていく「南三陸の森希望のポストプロジェクト」。集まったハガキは、途上国の学びを支援する世界寺子屋運動への募金になります。



北海道の高校生による 東北の物産販売プロジェクト

北海道岩見沢市の高校生たちが、東北の物産販売プロジェクトを実施しました。東北の物産を仕入れることで生産者への支援となり、物産を販売した売上金はユネスコ協会就学支援奨学金に寄附いただきました。



ユネスコの思いが 世界中から集まりました

「被災地のために、自分ができることを!」

日本のみならず世界中から多くの支援が届きました。

支援の形はそれぞれ異なりますが、思いは一緒です。

世界中からの支援

from UNESCO

パリに本部を置くUNESCOからは、イリーナ・ボコバ事務局長が世界に向けて支援を呼びかけました。事務局長自ら来日し被災地を視察、子どもたちを励ました。また、世界中のメッセージを被災地に届けようと「KIZUNA メッセージ・フロム・ザ・ワールド」を実施。



UNESCO本部での浮世絵展にはボコバ事務総長も足を運んだ

64ヵ国から3万4649通のメッセージカードが集まり、被災地の162校に届けられました。これらのご支援へのお礼として、2012年にはUNESCOで日本の浮世絵展を実施。和紙に大きく引き伸ばした浮世絵に、多くのパリ市民が感嘆の声をあげました。

from ベラルーシ

from ベラルーシ

約20年前、チェルノブイリ原子力発電所事故で被災したベラルーシ共和国の芸術学校の子どもたちが描いた絵画を、日ユ協連が巡回展示し、その際に集まった募金を同校に送りました。ときは流れて、今度は、東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所事故を知った同校に通う子どもたちが、被災地の子どもたちのために絵を描き、届けてくれました。この絵を東北はじめ各地で巡回展示。また、絵を電子書籍化して紀伊國屋書店、セブンネットなどで販売し、売り上げの一部は募金として活用されます。



日本のためにたくさんの絵を描いてくれた

from 世界寺子屋運動支援地

途上国の教育支援活動「世界寺子屋運動」の支援地、カンボジア・ネパール・アフガニスタン・ラオス・インドから、いち早くお見舞いの言葉が届きました。また、チャリティTシャツを販売したり、厳しい生活の中から募金を寄せてくれたりと、多くの人びとが支援をしてくれました。



カンボジアでつくられたチャリティTシャツ

ユネスコサポーターの支援

ユネスコ運動にご賛同いただいたユネスコサポーターの皆さまにご協力いただきました。

UNESCO スポーツチャンピオン
日本相撲協会 第69代横綱
白鵬関



日本ユネスコ協会連盟
スペシャルアドバイザー
雅楽師
東儀秀樹さん



UNESCO 平和芸術家
ヴァイオリニスト
二村英仁さん



日本ユネスコ協会連盟
世界寺子屋運動広報特使
まなびゲーター
久保純子さん

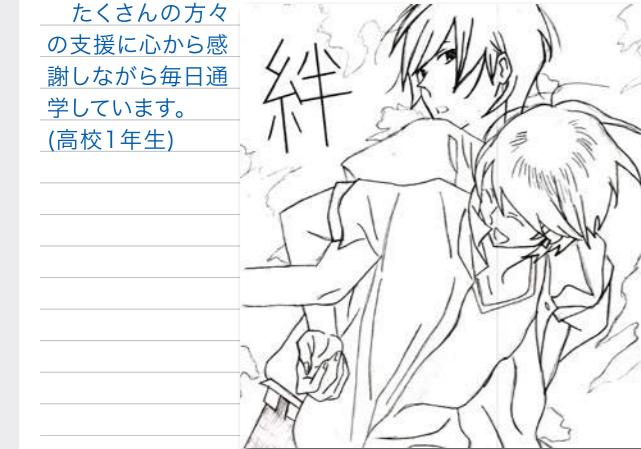
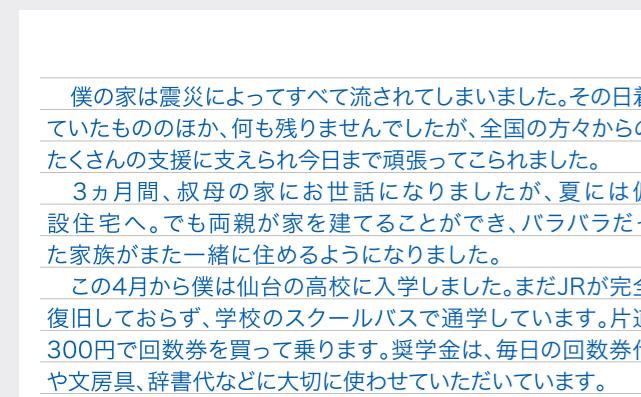
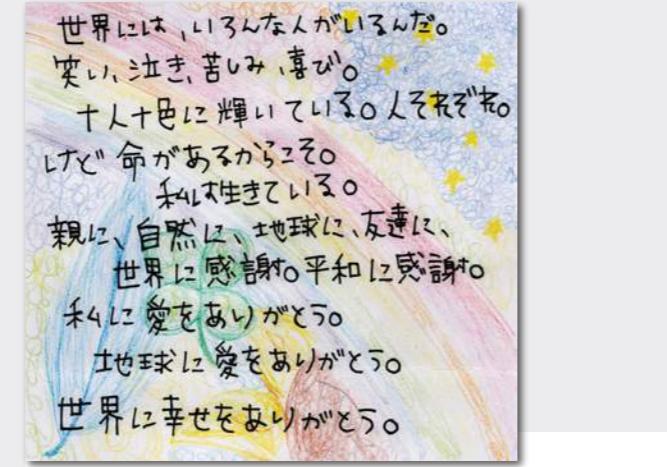
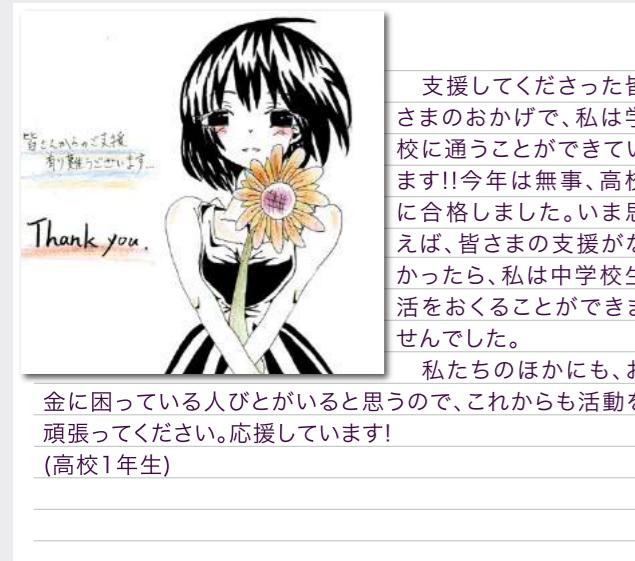
日本ユネスコ協会連盟
世界遺産活動特別大使“犬”
ワンパサダー
わさおくん



被災地から、たくさんの「ありがとう」

震災以来、支援をした学校や奨学生などからたくさんの礼状やお手紙が届いています。その一部をここでご紹介します。(お手紙は抜粋です)

奨学生から



学校から

勉強道具を送ってくださった皆さん、ありがとうございます。いまは門脇小、門脇中の3階を借りて、皆さまの支援物資の学用品を使って勉強しています。私たちが勉強できているのは、学用品を送ってくださった皆さんのおかげです。

この大災害を乗り越えられるほどの勇気をもらいました。これからも、この学用品を1学期、2学期、3学期と使っていきたいと思います。

(小学5年生)



保護者から

私は中学3年と小学3年になる子供2人、夫の4人で暮らしています。東日本大震災の前、我が家は、家を新築し、3年目に入り、これからというときでした。津波が来た時は、15m以上の高い防波堤の近くに家を建てていた為、海の様子が見えず、中学の息子は、卒業式の練習で早い帰りで、家に私と二人でいました。

大きな地震の後、電気はつかず、電話はかからず、連絡はとれず、気づいたときは、高い防波堤を波がこえ、家に近づいているのが見えました。外に上げる事はできず、息子といっしょに、無我夢中で、2階に上げました。波といっしょに家は浮き上がり、流れました。が、近くに橋があり、止まりました。その時です。上からロープを投げてもらい、助けられました。その後の記憶が、ときれときれです。皆も大変の中、こんな息子と私を助けてくださった人達に感謝して、人の暖かさを真から感じました。

その後生活が大変になり、家、食糧、服、何もなくなりましたが、その後支援があり、早いうちに普通の生活ができる様になりました。

あたりまえの生活が、どんなに幸せな事か、我が全員、実感しました。今では、元気に2人共学校に通っています。当時は夜も眠れず大変な中、学校が始まり、勉強も手につかず大変でしたが、今ではもう中3です。世の中は少し普通にもどってきてています。

一人じゃない事を分かって、前に向かってガンバって欲しいです。ユネスコ協会の事業に賛同する皆様には家族一同感謝しております。皆様の気持ちに答えられる様に、前に進んで行きます。



感謝状 行政・自治体から感謝状をいただきました。

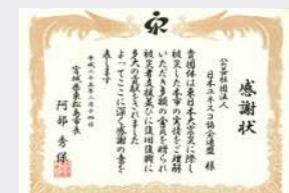
・文部科学省
生涯学習政策局



・宮城県



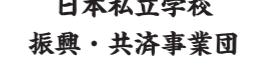
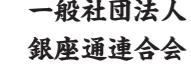
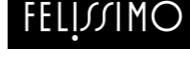
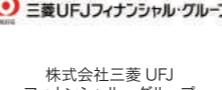
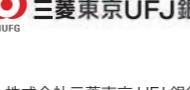
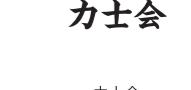
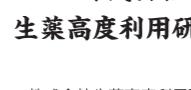
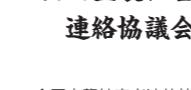
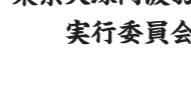
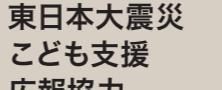
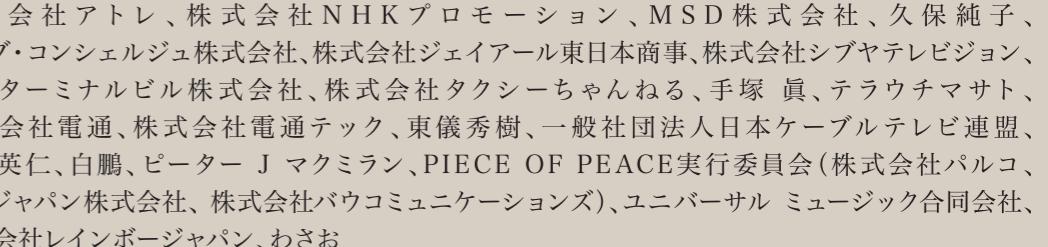
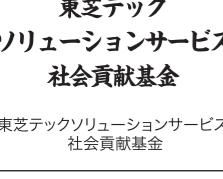
・宮城県東松島市



・岩手県山田町



日本ユネスコ協会連盟が進めてきたこれまでの活動は、以下の企業・団体をはじめとする多くの皆さんに、温かいご協力をいただいております。

 あいおいニッセイ同和 損害保険株式会社	 赤城乳業株式会社	 アクアクララ レモンガス グループ	 アクサ生命保険株式会社	 市川市少年野球連盟	 株式会社ニッセン	 一般社団法人日本旅館協会	 日本私立学校振興・共済事業団	 日本石鹼洗剤工業会	 日本テトラパック株式会社	
 株式会社ウイザス	 LG Electronics Japan 株式会社 社員一同	 園芸学会	 オリックス米国財団	 花王株式会社	 宗教法人日本テラワーダ仏教協会	 日本電信電話株式会社	 一般社団法人日本の伝統を守る会	 日本を創新する会	 BASF ジャパン株式会社	
 株式会社紀伊國屋書店	 一般社団法人 銀座通連合会	 グッチ ジャパン	 有限会社クロフネブライダル	 株式会社健康第一調剤薬局	 東日本旅客鉄道株式会社	 フェリシモファンド	 フォーエバーリビングプロダクト ジャパン	 ブルーチップ株式会社	 ベネッセ募金・ベネッセグループ	
 株式会社光明工事	 公立学校共済組合やすらぎの宿 (利用者一同)	 サービス・ツーリズム 産業労働組合連合会	 株式会社三喜	 株式会社シェイアル 東日本都市開発	 東日本旅客鉄道株式会社	 株式会社ベルセレージュ	 マックスバリュ西日本株式会社	 三井石油株式会社	 三菱重工業株式会社	
 株式会社ジェーシー・インターナショナル	 JAPONAIDE	 ジョルジオ アルマーニ ジャパン 株式会社	 新コスモス電機株式会社	 真如苑	 株式会社三井UFJ フィナンシャル・グループ	 株式会社三井東京UFJ銀行	 三菱UFJニコス株式会社	 ユーピーアイソフト株式会社	 力士会	
 株式会社 スペースシャワーネットワーク	 株式会社スポーツビズ	 株式会社生薬高度利用研究所	 株式会社セレスポ	 全国空襲被害者連絡協議会	 ルークスター株式会社	 有限会社レタスアンドピアス	 株式会社ロッテアイス	 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン		
 株式会社 ソニー・ミュージックアーティスティツ	 清酒 獺祭	 株式会社チカラノモト	 株式会社Tポイント・ジャパン	 東京大塚阿波おどり実行委員会	 東日本大震災 こども支援 広報協力					
 東芝テックソリューションサービス 社会貢献基金	 株式会社トランスコンテナ	 トレンドマイクロ株式会社	 南部化成株式会社	 西山製麺株式会社						

ユネスコ協会の輪

日本各地、約280のユネスコ協会からたくさんの支援が届きました。また、維持会員、個人会員、賛助団体会員からも心のこもった支援が届き、ユネスコ精神が結集しました。



皆さまの温かいご支援によって、
被災地の子どもたちは、安心して学べるようになりました。
しかしながら、支援を必要としている子どもたちが大勢います。
子どもたちが、進学や夢をあきらめないように。
私たちは教育支援を継続します。

「ユネスコ協会就学支援奨学金」は、皆さまからのご支援が必要です。
あなたの募金で、「子どもたちの学び」を応援してください。

募金のお手続きは、こちらでお手伝いいたします。
お気軽にお申しつけください。

毎月1000円からの募金 「月1・いいことプログラム」

インターネットから

ユネスコ 検索

募金専用
ダイヤル

03-5424-1124

9:30~17:30 (土日祝日休)

〈1回の募金をしていただく場合〉

(銀行振込の場合)三菱東京UFJ銀行 神田支店 普通 0297275 名義:シャニホンユネスコキヨウカイレンメイ ※窓口の場合、送金手数料は免除されます。
(クレジットカードの場合)日本ユネスコ協会連盟のホームページから直接お申込いただけます。

東日本大震災子ども支援募金事業 会計報告 (2012年4月1日~2013年3月31日)

費目	金額(円)
1.MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金(2012年4月1日~2013年3月31日)	
前期繰越	1,418,907,948
寄附額	306,427,905
支出額	330,260,000
奨学金	308,160,000
事業経費	22,100,000
次期繰越	1,395,075,853
※MUFG・ユネスコ協会東日本大震災復興育英基金は、2014年度まで新1年生を募集し、奨学生が高校を卒業する2026年まで継続されます。次期繰越金は、2026年までの奨学金事業に使用されます。	
2.ユネスコ協会就学支援奨学金(2012年4月1日~2013年3月31日)	
前期繰越	422,160,513
寄附額	725,222,239
支出額	670,167,234
奨学金	596,480,000
事業経費	73,687,234
次期繰越	477,215,518
※ユネスコ協会就学支援奨学金は、原則として、奨学生1人につき3年間にわたり支援します。 次期繰越金は、2013年度以降の本奨学金事業に使用されます。	
3.文化・地域支援(2012年4月1日~2013年3月31日)	
前期繰越	36,210,000
寄附額	70,707,072
支出額	68,305,237
支援物資	37,874,295
事業経費	30,430,942
次期繰越	38,611,835
※文化・地域支援は、年度をまたいで支援が完了するものがあります。 次期繰越金は、それらに使用されます。	

※当会計報告は、日本ユネスコ協会連盟が公認会計士及び監事による監査を受けた計算書類をもとに個別の活動の様子をわかりやすくお伝えするためにまとめたものです。

東日本大震災子ども支援募金としてお預かりした皆さまからのご寄附は、全て被災地支援に活用させていただきます。

日本ユネスコ協会連盟は “心の中に平和のとりでをつくろう”と 頑張っています。

持続可能な社会の実現のため、全国約280のユネスコ協会とともに地域の絆を深め、教育や文化継承など世界課題の解決を目指しています。

【世界寺子屋運動】【世界遺産活動】【未来遺産運動】

きょういくで、あしたへいく。

世界には、貧困や紛争などが原因で学校に通えない子どもや、学校に通えなかった人がたくさんいます。私たちは、発展途上国の貧しい地域に学びの場をつくり、読み書きや生活の技術を学ぶサポートを行っています。

地球のたからを、あしたへ届ける。

人類共通のたからもの、世界遺産。修復だけでなく、歴史や文化の大切さを、教育やコミュニティを通じて次の世代を担う子どもたちに伝えていくことが重要です。私たちは、主に危機に瀕する遺産を守る活動などを行っています。

日本のこころを、あしたへ伝える。

100年後の子どもたちに、長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝えるための活動を行っています。

【プロジェクト未来遺産】

【私のまちのたからものコンテスト】



UNESCOと日本ユネスコ協会連盟

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」
(UNESCO憲章前文より)

UNESCOは国際連合教育科学文化機関(United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization)といい、第二次世界大戦後の1946年に、人類が二度と戦争の惨禍を繰り返さないようにとの願いを込めて、各国政府が加盟する国際連合の専門機関として創設されました。

私たち日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章のもと、国際平和と人類共通の福祉の実現を目指し、草の根の活動をしています。



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1
朝日生命恵比寿ビル12階
TEL:03-5424-1121(代) FAX:03-5424-1126
Asahi-Seimei EbisuBldg.12F, 1-3-1 Ebisu,
Shibuya-ku, Tokyo 150-0013 Japan
TEL:81-3-5424-1121 FAX:81-3-5424-1126
<http://www.unesco.or.jp> E-mail:nfuaj@unesco.or.jp

発行人／野口昇 編集人／内田真朗